



シテライフ創刊30周年記念企画  
シテライフアーカイブズ  
北摂の歴史記録

現在、そして未来にもつながる過去の情報を取材、編集し、記録する特集です。北摂の歴史から、私たちの住むまちの魅力を学び知る機会になればと思います。第29回は「吹田の市民劇団、五月」について紹介します。

シテライフ アーカイブズ 検索

第29回

創立41年目の市民劇団「五月」

アマチュア界のプロ集団

アマチュア界のプロ集団。そう言ってもおかしくない市民劇団が吹田市内にある。「劇団五月」で団員は6人。お世辞にも大規模とは言えないが、その歴史はアマチュア劇団ながらも1977年の旗揚げから、この5月で創立41周年を迎える。

芝居好きの市民が  
ボランティアで

代表の廣岡真由美さんや小川尊子さんによると、創設したのは芝居が好きだった内装業の故、荒山誠さん(当時32歳、小川さんの夫)で劇団名は「5月に出来たから五月」という。1977年11月に老人ホームで公演をして以来、演劇でボランティア



稽古場で団員と「まんじゅうこわい」の稽古をする廣岡さん(中央)



故、荒山団長の優しい目が印象的だ(右)

ア活動を続けている。主な訪問先は老人ホームや乳児院など。和泉市の乳児院に毎年末に訪問してもう30年を超えるという。

それぞれの観客に合わせて、時代劇や民話劇、童話劇といった幅広いジャンルで創り上げる。ほとんどの台本は廣岡

さんたちの創作だ。団員は最盛期には32人いたが今も6人で頑張っている。自営業や主婦、看護師、会社員など様々な職業の人たちで、唯一の共通項は「芝居好き」。

阪神淡路大震災でも活躍

今でこそボランティアというフレーズが社会に浸透しているが、40年前の当時、そのような空気はなかった。娯楽に触れる機会の少ない人々へただただ「芝居の面白さを伝えたい」という思いがあったという。そのためには自ら足を運び公演しに行く。劇団五月にとつてはごくごく、自然な流れであった。本格的に世間にボランティアが認識されたの



1993年9月の近鉄小劇場での公演「つばくる物語」



1990年代の活動風景



1996年7月の大道具制作風景



2016年7月、老人ホームでの朗読劇

**取材を終えて**  
どこからの援助もなく、ほとんど自腹で芝居に没頭し、子どもからお年寄りまで幅広い支持を受ける演劇活動が40年を超えるなんて、半端じゃありません。そのことは学生のわたしにもよくわかりました。取材を終え、一切妥協の無い、劇団五月の人に愛される手作り芝居は、まさに「アマチュア界のプロ集団」だと確信しました。  
関西大学文学部2年次生、奥代恭平

20年ほど前は5歳から10歳までの子どもも子役として参加し、寄せ書きをしていた



**歴史案内人**  
取材協力  
元毎日新聞編集局長で関西大学文学部非常勤講師の深井麗雄さんと、その講義を受けた文学部2年次生、奥代恭平さんが劇団五月に取材しました。

5円玉のご縁

劇団五月の芝居は創設当時から「手作り」を心掛けていた。その背景には人と人との結び付き、団員一人一人の感性を重視し、人に愛される芝居作りを目指すというポリシーがある。その様子伺えるのが公演後、観客全員に配っている「五円玉のキホルダー」だ。五円玉を中心に毛糸を編み込み花形に飾ったものだ。もちろんこれも手作り。今から3年程前から始まり、「これからもご縁がありますように」という想いに加え、公演で再訪した際に五円玉のキホルダーを身につけた観客を見ると、また観に来てくれたと二目で分かるそうだ。観客全

目標はYES

40年の歴史を経て、現在4代目団長となつた廣岡真由美さんは「社会に出てからの人付き合いは上下という関わりが大半。だが、五月の良さはその人付き合い合いに仲間」という意識が強く、居心地の良さがある。その上で同じ目標に向けて一生懸命になれる楽しさがある」と話す。舞台監

大阪市住之江区にあるインテックス大阪。街は混沌の渦中であつたため、準備も容易では無い。大きな舞台セットを1度に運べるトラックも無く、何度も事務所と避難所を往復したそうだ。それほど、この時も芝居を届けたいという想いが強かつた。

員にと言つても相当な数にのぼる。そしてアマチュア劇団がゆえに制作費も材料費も団員自身の負担だ。取材最中に完成した物を拝見すると、非常に凝つた作りで一つ一つが異なつたデザイン。それは単なるお土産という形式的なものでは無く、演劇をする上で欠かせない存在である観客に対する思い、愛情に溢れた作品ともいえる。「作り始めたら年々凝つたものになっていって、一つ作るのも大変になってしまつたよ」と話してくれた団員たちの優しい表情は実に素敵だ。



2003年2月、信太山の老人ホームで「夕鶴」を公演

From CityLife

**ライター・カメラマン・イラストレーター  
フリーランススタッフ募集**

弊紙CityLifeで活躍してくれるフリーランスのスタッフを募集します。  
地元の魅力を伝えるための情報紙であなたの力を活かしてください。

**取材エリア** 神戸市(中央区・灘区・東灘区) 阪神間(西宮・芦屋) 大阪北摂エリア(高槻・茨木・摂津・吹田・豊中・箕面)

**応募資格** 25歳～40歳位まで。募集職種の経験が3年以上ある方(編集・ディレクター経験のある方歓迎)

**募集職種** ライター・カメラマン・編集(ディレクター)・イラストレーター

**応募方法** シテライフweb採用応募フォームから応募してください。  
<http://www.citylife-new.com>

取材力、文章力はもちろんですが、企画立案、紙面構成を考えたり、ディレクションができる方を特に求めています。もちろん、グルメ、ヘアサロン、エステ、教育、子育て、住宅関係など、専門性の高いライティングができる方も大歓迎。まずは採用応募フォームからお申込みください。

こんな人を求めています